

令和三年度第二学期始業式 式辞

皆さん、おはようございます。第二学期の始まりにあたり、校長としてお話をいたします。

皆さんの今年の夏休みの生活はいかがでしたでしょうか？随分と気になるところです。

「最悪」という声も聞こえてきそうです。推察するに、殆どの人が程度の差はあれ、思い描いていた夏休み生活と違っていたのではないのでしょうか。思い通りに送れたという人は極めて少なかったのではないかと、思われます。

その最大の原因はやはり「新型コロナウイルス感染症」でしょう。何かと行動が制限され、自粛していても常に感染の危険につきまともわれ、学業に部活に思う存分のことのできなかつた日々であっただろうと思います。

例年、夏休みに部活動や学習合宿で使われてきた「けやきの森」の研修棟「誠心館」も淋しそうに感じました。

目に見えない危険がこれほど人間を苦しめるものかと改めて思い知らされた夏休みでした。

残念ながら、この傾向は今後も続くと思われれます。新型コロナウイルスだけでなく、今後私たちが襲うかもしれない新しい感染症によって私たちは、意識や行動に大きな変化を求められていくことになるのでしょうか。

今までとの違いということ言えば、オリンピック・パラリンピックへの対応も挙げられます。一年延期してまで実施された東京オリンピック・パラリンピック。選手のひたむきさ、一生懸命さは変わらぬものがありました。何かこれまでとは違う雰囲気の中で競技が繰り広げられました。オリンピック・パラリンピックの意義やあり方にも言及がありました。これも、これまでとの大きな違いです。

気候変動による災害が各地で起きたことも、この夏の大きな特徴の一つでした。私自身の経験を少しお話しておく、大雨やそれに伴う洪水の直接の被害はありませんでしたが、休みの日を使ってしている農作業、畑仕事に影響が出ました。毎年作っている夏を代表する野菜ピーマンやナスビ、例年七月の初めに実がなりだし、十月の末ぐらいまで収穫を楽しめるのですが、今年は八月の中旬の段階で半分ぐらいが腐ってしまい、処分せざるを得ませんでした。記録的な大雨とそれによる日照時間不足の影響だと思っています。

このように大きな変化、変化というより変動が私たちの身のまわりで起きています。こんな時、私たちは何を考え、どのような行動をとれば、いいのでしょうか？

解決策がすぐにあるという訳ではありませんが、これまで以上に学習に励み、今起きている事象の原因を究明したり、予防策を講じることが大切だと考えます。人類はこれまで幾度となく大ピンチに襲われてきましたが、そのたびに先人たちは必死になって対策を講じ克服してきました。皆さんが、続いてくれることを願います。

二学期は、一年のうちで学習期間が一番長い期間です。また、気候のほうもしのぎやすくなる時期です。コロナ以外にもさまざまな制約がありますが、それにひるまず、学習に部活に打ち込んで欲しいものです。

最後になりますが、皆さん、本日、登校されて、何か気づいたことはありませんでしたか？そう、トイレが新しくキレイになりましたね。教育環境の改善・充実策の一環として夏休み期間を利用して工事を行いました。一部残っているところがありますが、それらは冬休みを利用して工事を行い、完成させる予定です。

又、食堂の方も現在の西館から西森記念館に移し、全く新しく、拡大して十月からリストートを切ることになります。メニューも豊富になるみたいです。楽しみにしていてください。

明誠学院に、今、新しい風が吹きはじめました。コロナの逆風に負けない、さわやかな風です。この新しいさわやかな風とともに、皆さんが学習活動に部活動に今まで以上の旋風を巻き起こしてくれることを期待して、第二学期の始業式の式辞と致します。

令和三年九月一日

明誠学院高等学校

校長

小池 仁